

富士市中小企業景況調査結果

令和8年度 第1四半期【令和8年4月～6月】

令和8年7月
富士商工会議所調べ

◇ 調査実施要領 ◇

富士市内中小企業の景気動向と経営状況について調査を実施した。
製造・建設・卸売・小売・サービス業の5産業、195事業所(回収率53.8%)を対象に、「令和8年4月～6月」の3ヶ月間の生産・売上および経営状況の調査を行い、その結果を産業別にまとめた。

DI（景気動向指数）

『改善』したとする企業割合から、『悪化』したとする企業割合を差し引いた値。

前年同期…令和7年4月～6月 今期…令和8年4月～6月 来期…令和8年7月～9月

表中の矢印＝5ポイント以上の推移を上下矢印で、5ポイント未満は横ばい矢印で表示した

◇ 今期調査の概況 ◇

前期・今期と比べたDI値の動き			↗改善	→横ばい	↘悪化
主要DI	前回調査		今期調査 (前年同期)		来期予測
売上	▲6.5	→	▲3.9 (▲3.1)	→	▲5.8
採算	▲30.8	↗	▲22.1 (▲22.3)	↘	▲30.8
業況	▲22.4	→	▲17.5 (▲15.4)	→	▲21.4

今期調査では、全産業合計の売上DIが2.6ポイントの改善、採算DIが8.7ポイントの改善、業況DIが4.9ポイントの改善となった。来期の予測については、売上・業況が横ばい、採算が悪化の予想となった。業種別の来期予測は次の通りである。売上DIは製造業が改善、建設業・小売業が横ばい、卸売業・サービス業が悪化を予想。採算DIは、小売業が改善、製造業が横ばい、建設業・卸売業・サービス業が悪化を予想。業況DIは、製造業が改善、サービス業が横ばい、建設業・卸売業・小売業が悪化を予想となった。

全体を通して、中東情勢の緊迫化や円安に伴う原油・ナフサ等の原材料、エネルギー価格の高騰が収益を圧迫しているとの声が圧倒的に多く、先行きへの強い不透明感が示された。また、人手不足を背景とした人件費の上昇が経営の負担となっている状況や、それに伴う価格転嫁の難しさ、過当競争を懸念するコメントも目立った。

経営上の問題点では、製造業・建設業・小売業で「売上、利益減による資金圧迫」、卸売業で「商品、原材料仕入れ価格の上昇」、サービス業で「設備老朽化」が上位を占めた。

◇ 全産業の動き ◇

●売上高のD I

今期は製造業・建設業が改善、卸売業・小売業が横ばい、サービス業が悪化。

来期は製造業が改善、建設業・小売業が横ばい、卸売業・サービス業が悪化を予想。

業種	前期		今期	前年同期		来期予測
製造業	▲ 14.3	↗	▲ 3.1	▲ 11.1	↗	18.2
建設業	▲ 9.1	↗	0.0	0.0	→	▲ 4.5
卸売業	5.6	→	6.3	25.0	↘	0.0
小売業	▲ 16.7	→	▲ 14.3	▲ 35.3	→	▲ 14.3
サービス業	12.0	↘	▲ 10.5	3.6	↘	▲ 47.4

●採算（純利益）のD I

今期は製造業・卸売業・小売業が改善、建設業が横ばい、サービス業が悪化。

来期は小売業が改善、製造業が横ばい、建設業・卸売業・サービス業が悪化を予想。

業種	前期		今期	前年同期		来期予測
製造業	▲ 35.7	↗	▲ 15.2	▲ 18.9	→	▲ 15.2
建設業	▲ 22.7	→	▲ 18.2	▲ 32.1	↘	▲ 36.4
卸売業	▲ 38.9	↗	▲ 25.0	▲ 30.0	↘	▲ 37.5
小売業	▲ 41.7	↗	▲ 35.7	▲ 17.6	↗	▲ 21.4
サービス業	▲ 16.0	↘	▲ 26.3	▲ 14.3	↘	▲ 52.6

●業況D I

今期は製造業・卸売業が改善、建設業・小売業が横ばい、サービス業が悪化。

来期は製造業が改善、サービス業が横ばい、建設業・卸売業・小売業が悪化を予想。

業種	前期		今期	前年同期		来期予測
製造業	▲ 28.6	↗	▲ 12.5	▲ 21.6	↗	3.1
建設業	▲ 4.5	→	▲ 4.5	▲ 10.7	↘	▲ 27.3
卸売業	▲ 22.2	↗	▲ 12.5	▲ 15.0	↘	▲ 31.3
小売業	▲ 33.3	→	▲ 28.6	▲ 23.5	↘	▲ 35.7
サービス業	▲ 20.0	↘	▲ 36.8	▲ 7.1	→	▲ 36.8

◇ 産業別の動き ◇

※コメントは回答に基づき要約しています。

〔製 造 業〕

『製紙』・・・「輸入商品の増加と安値競争に直面している」「構造的な需要減退が続いている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「現在の状況が継続する」とのコメントが寄せられた。

『紙加工』・・・「副資材の高騰により製品値上げが予定されており、その後の需要減が予想される」「紙の生産縮小が毎年 10%程度ある」「需要は安定しているが、中東情勢悪化による原油関連製品の値上げや入手難が報告され、資材調達に不安がある」「中東情勢の影響で仕入難や価格上昇が続く、利益を圧迫している。入荷遅延により取引先との交渉が増え、事務員の負担が増している」「需要に大きな変動はないと考える」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「製品価格は高止まりすると思われる」「業界的に縮小傾向にあり、事業拡大は難しい」「資材（フィルム、テープ、接着溶剤等）が軒並み価格高騰と入手難に陥り、先行きが確認出来ない」「中東情勢の影響がいつまで続くか分からないが、長引くほど悪化する。政府は問題ないと言うが小規模事業者への影響は甚大で、補助金等の支援策が必要である」「原材料高騰による製造原価上昇は、販売単価の値上げで対応していく」とのコメントが寄せられた。

『金型部品』・・・「久方ぶりの自動車業界の大きな流れが、メーカーの意向でストップした」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「上記の影響により売り上げ減少を懸念している」とのコメントが寄せられた。

『金属加工』・・・「ナフサ不足に伴い関連機械の受注が減少している。また油不足により工作機械の運転に支障が出ている」「中東紛争の影響で自動車部品は減産が続くと思われるが、工作機械等の部品は順調に推移している」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「あまりにも不透明で先が読めない」とのコメントが寄せられた。

『自動車部品』・・・「原油高騰により工業用オイルが大幅値上げとなり、在庫不足となっている」「人件費、材料費、外注費が上がる中、得意先への適正な価格転嫁が進んでいない」「中東情勢により全く先が読めない」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「現状が続けば作業に影響が出る可能性がある」「昨年からのトラック業界の生産台数は安定し、弊社売り上げも前年比 100%を超えているが、物価高騰や中東情勢の影響で見通しは悪化すると予測している」「先が読めない状況である」とのコメントが寄せられた。

『食料・飲料』・・・「世界的な抹茶需要によりリーフ茶不足が続いている。茶全体の相場が上昇し、生産者として余裕を持った設備投資が行える事はプラス材料である。一方で緑茶需要を下支えする低価格帯の普段飲み用茶が高騰し、消費者のお茶離れに繋がらないか不安も感じる。そのため、栽培から販売まで一括して営む事業者として、市場出荷分の増益で経費増を吸収し、自家小売分は価格据え置きに努めながら収益を確保したい」「世界的な抹茶ブームにより、数年前から県内で煎茶から碾茶製造へ転換する工場が増えており、煎茶の製造量が減っている。今後も碾茶工場は増える見込みである」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「茶需要の高止まりは数年続くと思われる。いずれブームが去っても農家減少で原料葉の大幅増は見込めず、中長期的にも以前のような業界全体

の低迷は考えづらい。しかし小売価格高騰によるお茶離れと需要低下には十分な警戒が必要である。今こそ消費者や協力販売店との信頼関係を構築し、ブーム後でも動じない骨太の経営体制づくりに注力したい」「抹茶ブームがいつまで続くか注視している。日本茶の生産が減り価格が高騰すると、大手が海外産を仕入れ、スーパー等で補われるという声も聞く」とのコメントが寄せられた。

『食料品』・・・「包材の価格高騰が続き、入手困難な商品もあり対応に追われている」「設備が老朽化している」「円安、原料高、人件費、物流費、資材、エネルギーなど全てが上がる一方、価格転嫁が遅れている。値上げしても需要は低迷している」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「今後も世界情勢の影響で仕入価格・包材・光熱費などの上昇が予想され、販売価格を値上げせざるを得ない状況になる」「明るくも暗くもない」「業況は悪化すると想定している」とのコメントが寄せられた。

『衣料』・・・「中東情勢の影響でナフサ価格が急騰し、化学繊維やポリエステル原料の値上げが進んでいる。アクリル短繊維やナイロン、ポリエステルもメーカー値上げが発表され、業界全体で原価上昇圧力が強まっている。4～6月で2度の値上げがあるものもあり、価格転嫁が追い付かない」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「引き続き原材料価格の高止まりが予想される。コロナ禍のような政府の融資支援策に期待したいが、株価が高値圏の現状を踏まえるとその可能性は低く、当面は自助努力による対応が必須である」とのコメントが寄せられた。

『繊維加工』・・・「業界において市内に唯一残っていた工場の廃業が決まった」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「人手不足や原材料不足（イラン・アメリカ・イスラエル紛争の影響）により、需要はあっても供給出来ない状態が続くと思われる」とのコメントが寄せられた。

『機械器具』・・・「自動車業界は国内での新車種立ち上げが少なく設備投資が減っている。医療、医薬、食品、健康分野の企業は設備投資を行っているため、こうした領域の仕事を取りたい」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「国内自動車は今年度内は厳しそうなので、医療、医薬、食品、健康分野に営業を行っている。設備需要はあり見積みもりも出ているため、悲観してはいない」とのコメントが寄せられた。

『金属製品』・・・「設備投資減少の影響か、全体的に受注量が減っているのを感じる」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「ナフサ問題が解消しないと、先行きが不安である」とのコメントが寄せられた。

『その他』・・・「富士市を力強く牽引する大手企業が無いため、企業の二極化が進んでいるのではないか」「会社のアドレスに社長を装った偽メールが届くことが続き怖い」「茶香房山田製茶でテラスを作った。北に富士山と茶畑、南に駿河湾が一望できる。今後は花見や農業体験等も提供できればと考えている。オープンはお茶シーズンが終わる八月頃を予定している」とのコメントが寄せられた。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業 況	31.3	34.4	34.4	▲ 3.1	改善
売上高	27.3	30.3	42.4	▲ 15.2	横ばい
採 算	25.0	37.5	37.5	▲ 12.5	改善

〔建設業〕

『総合建設』・・・「高齢化による生産性の停滞、価格高騰による計画の見直しや延期、人員不足による工事進行の遅延等が生じている」「公共工事やインフラ更新需要に支えられ受注環境は堅調である。一方で人手不足や時間外労働規制への対応、資材価格の高騰により、収益確保や施工体制の維持が課題である」「設備投資の鈍化による過当競争が起きている(DXやIT関連投資を優先する企業が多い)」「資材不足による工程の遅れや中止など、生産性は良くない」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「価格高騰がしばらく続き、景気は低迷を続けると思われる」「公共工事及び民間の設備投資需要は底堅く推移すると見込まれる。一方、資材価格の高止まりや技術者不足が継続するため、施工体制と利益の確保をどう行うかが課題となる」とのコメントが寄せられた。

『一般住宅関連』・・・「堅調に推移している」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「材料調達や金額面など、先行きが見通せない点が多く不透明である」「静岡県が人口流出2位という結果はショックだった。東京に近すぎるものが影響しているのか疑問である。子育てに関しては東京が手厚く、天候を問わず親子で気軽に利用できる公施設の充実が羨ましい」とのコメントが寄せられた。

『建設車輛等賃貸業』・・・「緩やかな景気回復に伴い、底堅い需要で順調に推移していた」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「中東情勢により一気に不透明感が増し、物価上昇によるコスト増や経済の下振れ懸念が大きく増している。需要減とコスト増が心配される」とのコメントが寄せられた。

『設備工事』・・・「引き合いが激減している」「公共工事が減少している」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「好転の兆しが見えない」「過当競争と人材不足で、見通しは厳しい」「更に悪化する」とのコメントが寄せられた。

『造園土木工事』・・・「全体として緩やかな拡大か横ばいで急成長はないが、需要は底堅い」「人員・人材不足である」「公園、民間共に草刈りや庭木の手入れがある」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「人員・人材不足の改善はみられない」「公共工事の発注を望む」とのコメントが寄せられた。

『土木関連』・・・「解体工事は空き家対策の影響で件数が大幅に上昇している。土木工事は需要低迷で逆に減少している」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「燃料やその他原材料の高騰が落ちつくまで様子を見る。一度値上がった物は中々下らない」とのコメントが寄せられた。

『屋外広告・イベント』・・・「インク・塗料・石油製品の供給不足が起きている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「地方の零細企業に何ができるのか、厳しい状況である」とのコメントが寄せられた。

『建設関連』・・・「昨期からズレ込んだ物件等がある為、上半期は物件が多いように見えるが、下半期についてはナフサ等の影響により非常に不透明な状況である」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「建築資材の高騰が続く事で、新築物件は更に減っていくと予想される」とのコメントが寄せられた。

『その他』・・・「季節の進行が早まっている。台風接近や梅雨入りなど一昔前とは気候が異なり、お茶の時期もずれて大変なようだ」「駅北口再開発の解体は順調だが、その後のマンション建設は資材高騰等でどうなるのか懸念される」とのコメントが寄せられた。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業 況	18.2	63.6	18.2	0.0	横ばい
売上高	13.6	54.5	31.8	▲ 18.2	悪化
採 算	13.6	68.2	18.2	▲ 4.5	悪化

〔卸 売 業〕

『機械器具』・・・「石油由来製品の値上げや納期遅延が発生しているが、機械系製品が販売の中心のため大きなダメージは感じていない。他の製品の値上げも価格転嫁できており、少額は自社で吸収している」「空調・冷凍冷蔵設備業界では、電気料金高騰や設備老朽化を背景に、省エネ性能の高い機器への更新需要が継続している。また飲食店や物流施設等を中心に修理・メンテナンス需要も堅調である。一方でメーカーの価格改定や資材費・人件費の上昇が続いており、工事原価の上昇が課題である。設備投資意欲はあるものの先送りする企業もあり、価格競争は依然厳しい」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「市外顧客だが半導体関連企業は活況になりつつある。新規設備等大口案件の話は減ったが、改造やオーバーホール等の小口案件は増えているように感じる」「今後も設備の更新需要や省エネ化を目的とした案件は増加傾向にある。一方で技術者・人材確保は業界全体の大きな課題であり、施工体制の確保や業務効率化が重要になる。当社では DX 活用による業務効率化や営業エリア拡大を進めている」とのコメントが寄せられた。

『金属部品』・・・「円安放置による物価上昇や長期金利上昇が、業界内でも経営維持への不安を強めている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「原材料価格の上昇が続けば広い分野で倒産企業が増えるため、この業界も経済全体の落ち込みに引きずり込まれることが懸念される」とのコメントが寄せられた。

『工業薬品』・・・「製品価格の見直しが急務である」「化学品、包装材料全てにおいて値上げ傾向の為、製造現場を含め予断を許さない」「ナフサ不足問題に関連し、製紙用薬品は一部不足があるもののほぼ問題なく供給されている。しかし価格上昇は続く様子である」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「仕入価格の上昇が続き、対応に追われる」「中東情勢に左右されるが、今後も引続き厳しい状況が続くと思う」とのコメントが寄せられた。

『再生資源』・・・「鉄屑使用量については、製鉄所の国内外での需要減により生産量が減少している」「銅屑系の国内価格が高値を更新している。需給逼迫懸念から国際価格が上昇し、円安進行で円建ての国内価格が上昇している。銅系屑の高値により盗難等が社会問題化している。鉄屑は紛争地域の復興支援を見込み、東南アジアやトルコの製鉄所からの需要が大きい」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「原油不安が続く内は、需要増は期待出来ない」「米国とイランの紛争の落ち着きと、供給不足解消に期待する」とのコメントが寄せられた。

『紙』・・・「資材関係の値上がりが起きている」とのコメントが寄せられた。

『食品』・・・「グループ化、業界再編が進んでいる」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「大企業の販売網が地元でも拡大していくと思われる」とのコメントが寄せられた。

『製紙原料』・・・「古紙は相場商品である為、価格転嫁が難しく回収率低下により売上が減少している」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「古紙回収の低下と古紙相場上昇の見込みが不透明であり、それに伴うランニングコスト上昇により大変厳しい状況が予想される」とのコメントが寄せられた。

『包装資材』・・・「販売価格が毎月高騰している」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「今年の夏過ぎ頃まで仕入価格は高騰しそうである」とのコメントが寄せられた。

『その他』・・・「株価上昇に反比例して、実体経済は僅かに減退し続けているように感じる」「富士市周辺では製造業・物流業を中心に設備投資意欲が見られ、空調・冷凍設備需要は比較的安定している。一方で建設業全体として人手不足が深刻化しており、若手技術者の育成や業務効率化が地域課題だと感じる」「富士市の行政や民間の取組がメディアで取り上げられることが多くなり、積極的な情報発信の良い結果だと思う」「この状況でも新築住宅の着工が数軒始まっており、少し心配になる」「特定金属等の盗難事件増加に伴い、6月1日より金属盗対策法（※1）が前面施行される」「原材料値上げにより、各企業・一般家庭の消費が落ち込んでいる。生産者の労働意欲低下が地域の落ち込みに繋がっている」「家庭紙メーカーは7月から値上げする方向である」とのコメントが寄せられた。

※1・・・「金属盗対策法（盗難特定金属製物品の処分の防止等に関する法律）」について

【法律の概要】※警察庁HPより抜粋

1 特定金属くず買受業に係る措置

特定金属くず（※）の買受けを行う営業を営む者に係る措置

※ 当該金属を使用して製造された物品の窃取を防止する必要性が高い金属（銅及び政令で定める金属）により構成されている金属くず

- ▶ 特定金属くず買受業の届出（罰則あり）
 - ・ 特定金属くず買受業を営む場合の届出義務
- ▶ 買受けの相手方の本人確認等
 - ・ 特定金属くずの買受け時の相手方の本人確認義務
 - ・ 当該本人確認事項等に関する記録の作成
 - ・ 保存義務
- ▶ 取引記録の作成等窃取された銅線ケーブル
 - ・ 特定金属くずの買受けを行った場合、買受けに係る相手方の氏名、内容等に関する記録を作成・保存する義務
- ▶ 警察官への申告
 - ・ 買受けに係る特定金属くずが盗品に由来するものである疑いがあると認めたときの警察官への申告義務
- ▶ その他・特定金属くず買受業を営む者に対する指示、営業停止命令並びに報告徴収及び立入検査等

2 犯行用具規制

- ▶ ケーブルカッター等のうち犯行使用のおそれが大きい工具の正当な理由なき隠匿携帯を禁止（罰則あり）

3 盗難の防止に関する情報の周知

- ▶ 金属盗の被害に遭うおそれが大きい者に対する盗難防止に資する情報の周知

詳しい内容は警察庁ホームページ（<https://www.npa.go.jp/>）でご確認ください。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業 況	25.0	56.3	18.8	6.3	悪化
売上高	18.8	37.5	43.8	▲ 25.0	悪化
採 算	25.0	37.5	37.5	▲ 12.5	悪化

〔小 売 業〕

『衣料品』・・・「全体に於て、市場が縮小に向かっている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「旧中心市街地エリアが再開発で賑わいを取り戻すなどと考えるのは、止めた方がいいと思う」とのコメントが寄せられた。

『各種食料品』・・・「物価上昇により消費者の財布のひもが堅くなっていると感じる」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「人口減少により客数の減少が考えられ、店舗の発信力が試される」とのコメントが寄せられた。

『食品』・・・「原材料費、人件費の上昇が続いており、採算性は基本的に厳しい方向に向かっている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「当店では昨年5月にカフェコーナーを併設して以降、売り上げが向上している。今後はカフェコーナーを核に、新製品販売や外販の販路拡大等、売上を伸ばす方策を積極的に打ち出していく計画である」とのコメントが寄せられた。

『飲料品・食品』・・・「全国的な抹茶原料へのシフトにより、低価格帯の煎茶原料が手に入らなくなった。昨年からの予想以上に致命的に出回っておらず、値上げでの対応は不可能で終売に追い込まれる」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「贈答用・手土産用は問題なく供給できている。しかし世界的な抹茶特需が納まるまでは、家庭用やお徳用の手頃な煎茶は販売できなくなる。さらに低価格帯のティーバッグやほうじ茶、玄米茶等の日本茶に影響が出るのは必至である」とのコメントが寄せられた。

『生花』・・・「ナフサ不足の影響で全品物に高値が付いている。農産物にもナフサ不足の影響が有り、仕入れに響いている。中東情勢が落ち着かないと不安しか残らない」「高齢化や人口減少、イベント等の小規模化により需要が減少している。物価高や生産者高齢化によりコストが上がり、仕入価格が上昇している」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「ナフサ不足で値上がった品物が、休戦と共に値下がるとは思えない」「夏に向けて気温上昇に伴う弊害やリスクが考えられる。消費者の節約志向は高まり、市場縮小は続くであろう」とのコメントが寄せられた。

『日用品・雑貨』・・・「今年に入ってから一部の大ヒット商品に助けられている状況である」「ここ何年かは業況は余り良好ではなく、明るい兆しが見えてくれればと願う昨今である」「中東問題による値上げラッシュと品物不足（プラスチック・ビニール系）が起きている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「各メーカーから5～20%ほどの値上げ通知が多くなってきた。今後、顧客数の減少が懸念される」「前述の通り、厳しい状況が続くと思う」とのコメントが寄せられた。

『自転車』・・・「完成車・部品ともに各メーカーの値上げ傾向が止まらない。需要も落ち込んでいる」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「改善の見通しは立たない」とのコメントが寄せられた。

『その他』・・・「近くのコンビニが閉店し、ケーキ屋の開店が目立つ」「富士市で行われた自転車のグラベルレースは盛況だったようだが、市民の認知度が低いのが課題であろう」「（自社店舗が入る）施設はオシャレな店舗が多く、若い女性を中心とした客層を獲得している。当店はその中心的存在として SNS 等で魅力を発信し続け、施設全体を集客力の高い地域の憩いの場としていく」「解体の音が街を賑わしているが、人の気配

は少ない」「今年の吉原祇園祭は両日とも天候に恵まれ人出も非常に多く、当店も昨年の売上を大幅に上回る事ができた」とのコメントが寄せられた。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業 況	21.4	42.9	35.7	▲ 14.3	横ばい
売上高	7.1	50.0	42.9	▲ 35.7	改善
採 算	14.3	42.9	42.9	▲ 28.6	悪化

〔サービス業〕

『クリーニング』・・・「資材、燃料高騰と品薄により製造経費が増加している」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「当分の間、高止まりする」とのコメントが寄せられた。

『飲食』・・・「商店街全体で来街者を呼び込む力は弱まっており、飲食業においても商店街としての相乗効果を感じる機会は少なくなった。現在は各店舗が独自の強みや商品力を高め、個別に集客努力を行うことで営業を維持している状況である」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「個店の魅力向上と併せて、地域全体の魅力向上や回遊性を高める取り組みが必要であると考える」とのコメントが寄せられた。

『運輸・倉庫』・・・「米国大統領の関税政策で世界中が混乱し、またイラン情勢などもあり、物価が高騰し大変である」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「中東の紛争が終わらないと、先の見通しが立たない」とのコメントが寄せられた。

『自動車』・・・「人口減少による団体客の利用減など、需要の減少を非常に厳しく感じている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「今後も人口減少と需要の低下は底が見えない状況である」とのコメントが寄せられた。

『自動車整備』・・・「仕事量は年々増加しているが、競合他社の廃業によるものと思われる。部品価格や材料（ナフサ）の入荷が不透明な為不安である。価格転嫁も困難である」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「不透明である」とのコメントが寄せられた。

『専門サービス』・・・「処理の効率化と低価格で勝負する処理型と、高付加価値で勝負するコンサル型の二極化が進んでいる」「中小・零細事業者の廃業・解散が増加し、事業承継がスムーズにいかない業者が多く、諸物価高騰の中で価格転嫁できない業者が増加している」「消費税減税対応への負荷が大きい」「過当競争である」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「上記の通り二極化が進む」「価格転嫁できない業者が、日銀の金利上昇に合わせて資金繰りに影響が出ている」「明るさを感じない」とのコメントが寄せられた。

『不動産』・・・「一部地域では相続による土地の売却が進み、分譲地化による過当競争が予想され、今後の予測が立たない」「宅地分譲販売は、工事費用上昇による利益圧迫、景気見通しの不透明感や金利上昇による需要者減少が続く非常に厳しい。仲介取引も同様と考える」「資材価格の値上がりや確保困難により客足が遠のいている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「現在造成中の分譲地がどう売れて行くのか想像がつかない。建売住宅は相変わらず売れているが、いつか売れ止まりの時が来る気がする」「工

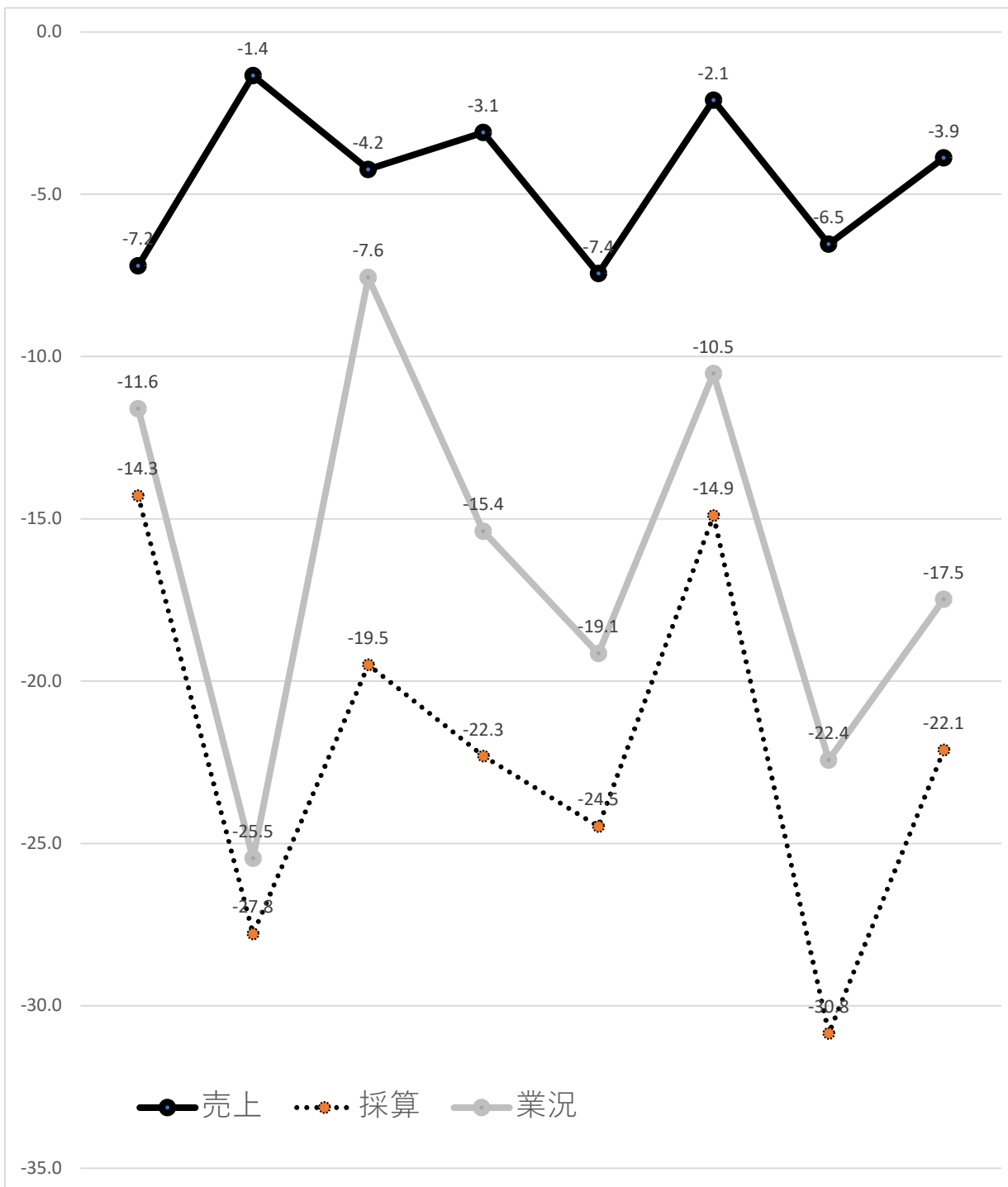
事費用の上昇傾向は収まらず、宅地分譲販売は依然として厳しい状況が続くと考え。需要者減少も改善の兆しは見られない」「これまでの状況が改善する気配はない」とのコメントが寄せられた。

『旅館・ホテル』・・・「近隣でケーキ屋の廃業が多数見受けられる。原材料費・人件費増の結果だと思う。生産や販売のやり方を変えなければ生き残れない」「スポーツ界はワールドカップやアジア大会等、海外需要もあり動きが活発である」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「スポーツ界のインフラはまだ十分ではない為伸びしろはあるが、利用者の使いたい時期（週末や学校長期休業期間等）に集中する課題は残る」とのコメントが寄せられた。

『その他』・・・「富士駅前再開発は計画の全体像が見えにくく、期待より不安が先行している。今後のマンション建設に伴う商業エリアへのテナント誘致は重要だが、まずは新旧住民のニーズを踏まえた暮らしやすい環境整備を進めることが重要だと考える。それがテナント進出や集客に繋がるのではないか」「ナフサだけでなくエンジンオイルの入荷が止まっている業者もあり、オイル交換が出来ない事で物流や経済に多大な影響があるのではと感じている」「空き家が増えている。売却相談もない空き家は前居住者の荷物が片付かないままだと思うが、この先どうなるか思いやられる」「稀なケースかもしれないが、海外の富裕層が富士山の眺望のいい物件を探しているという問い合わせがあった」とのコメントが寄せられた。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業 況	21.1	47.4	31.6	▲ 10.5	悪化
売上高	15.8	42.1	42.1	▲ 26.3	悪化
採 算	5.3	52.6	42.1	▲ 36.8	横ばい

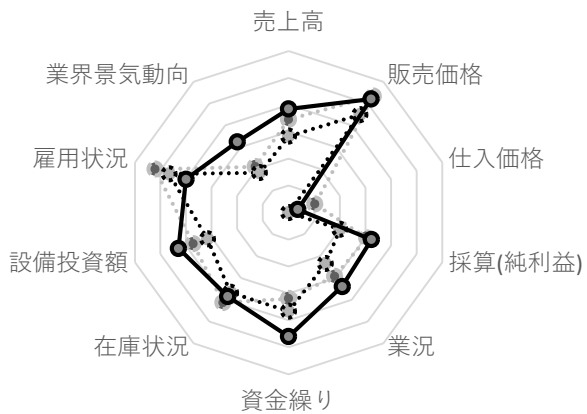
◇ 全産業主要D I 推移状況 ◇



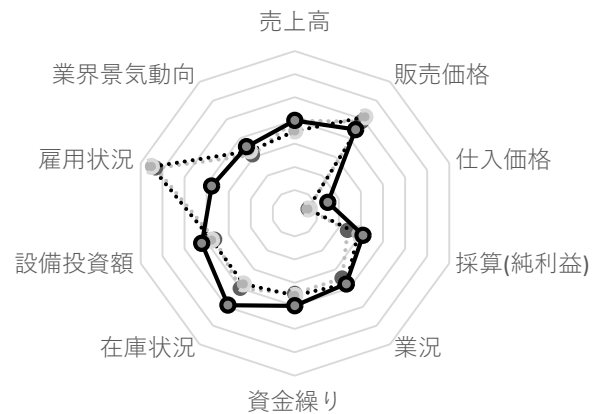
	R6第2	R6第3	R6第4	R7第1	R7第2	R7第3	R7第4	R8第1
売上	-7.2	-1.4	-4.2	-3.1	-7.4	-2.1	-6.5	-3.9
採算	-14.3	-27.8	-19.5	-22.3	-24.5	-14.9	-30.8	-22.1
業況	-11.6	-25.5	-7.6	-15.4	-19.1	-10.5	-22.4	-17.5

◇ レーダーチャート ◇

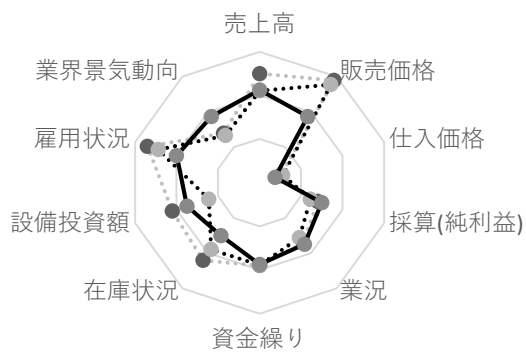
製造業



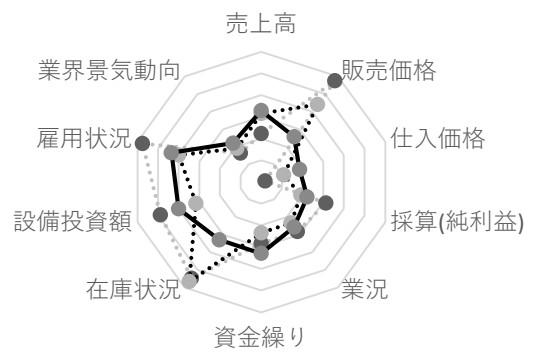
建設業



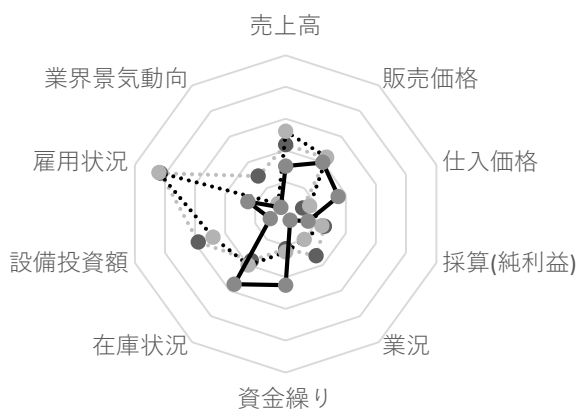
卸売業



小売業



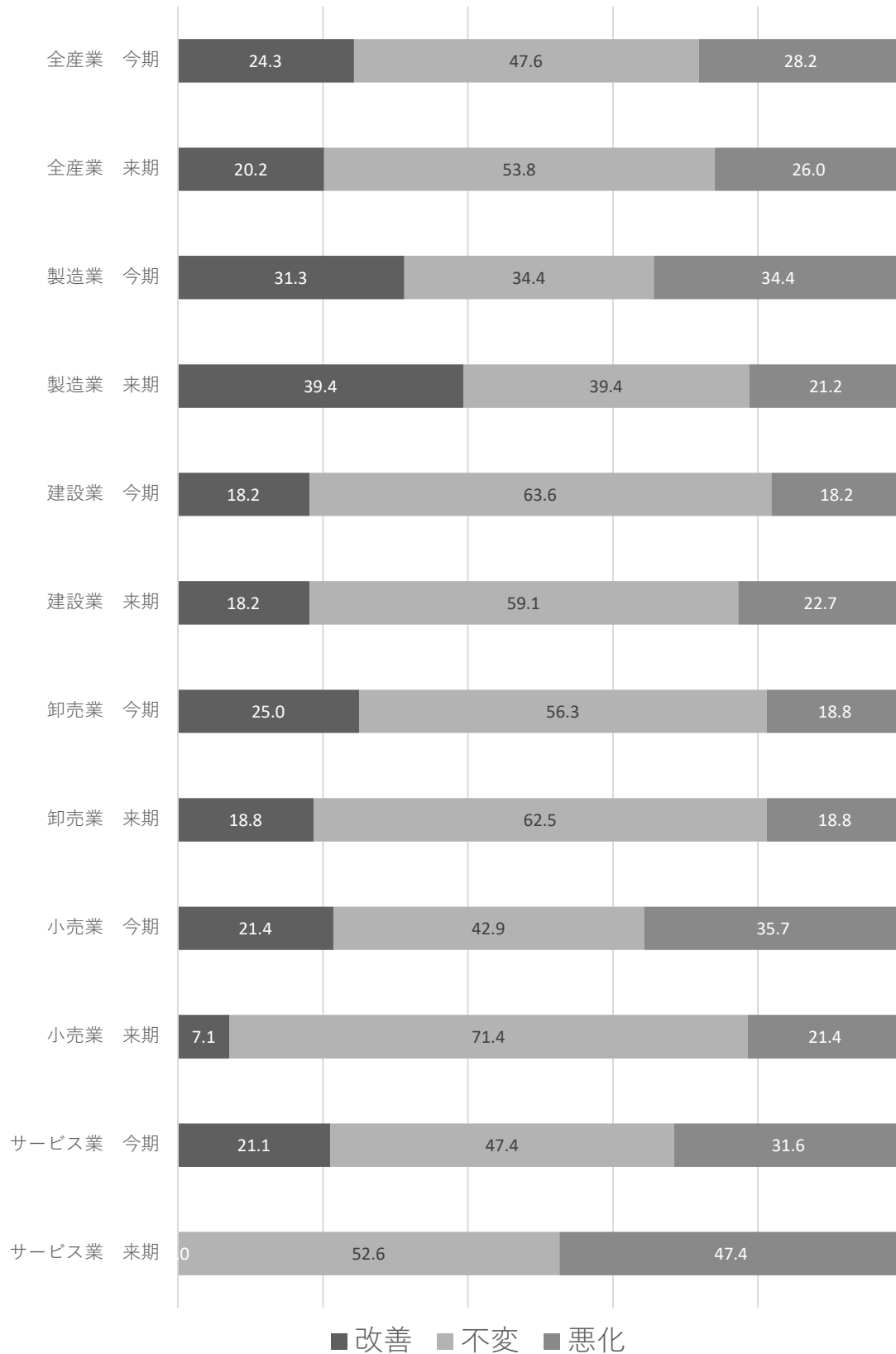
サービス業



◇ 経営上の問題点 ◇

産業別	上位回答項目
製造業	1 位 売上、利益減による資金圧迫 2 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇／設備老朽化 3 位 人材不足 その他 売上減に伴う利益減
建設業	1 位 売上、利益減による資金圧迫 2 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇／設備老朽化 3 位 人材不足 その他 売上減に伴う利益減
卸売業	1 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇 2 位 人材不足 3 位 設備老朽化 その他 販売価格値上げ難
小売業	1 位 売上、利益減による資金圧迫 2 位 設備老朽化 3 位 売上減に伴う利益減 その他 その他の需要の低迷
サービス業	1 位 設備老朽化 2 位 人件費高騰 3 位 売上、利益減による資金圧迫 その他 人員不足

◇ 売上高の今期実績と来期予測の比較 ◇



最近の静岡県金融経済の動向

公表日（2026年6月10日）

日本銀行静岡支店

（経済面）県内の景気は、一部に弱めの動きもみられるが、緩やかに回復している。最終需要の動向をみると、公共投資は高水準で推移している。設備投資は増加している。個人消費は、物価上昇などの影響がみられるものの、底堅く推移している。輸出は持ち直している。住宅投資は減少している。こうしたもとで、企業の生産は、横ばい圏内の動きとなっている。雇用・所得環境は、緩やかに改善している。消費者物価（除く生鮮食品）は、前年を上回っている。

（金融面等）預金は、前年を上回っている。貸出は、前年を上回っている。貸出約定平均金利（総合・ストックベース、地銀・第二地銀、2026年3月）は、前月比上昇している。企業倒産（負債総額10百万円以上）は、概ね感染症拡大前の水準となっている。

1. 需要項目別の動向

※前回からの変化 改善 ↗ 横ばい → 悪化 ↘

（1）個人消費（前回からの変化） → 物価上昇などの影響がみられるものの、底堅く推移している。

百貨店・スーパー売上高は底堅く推移している。コンビニエンスストア販売額は底堅く推移している。ドラッグストア販売額は増加している。家電販売額は回復している。新車登録台数・販売台数は持ち直している。旅館・ホテルの宿泊数は横ばい圏内の動きとなっている。

（2）公共投資（前回からの変化） → 高水準で推移している。
（公共工事請負金額前年比：26/4月▲16.3%→26/5月9.4%）

（3）設備投資（前回からの変化） → 増加している。
（短観・設備投資額：25年度計画11.5%→26度計画1.0%）

（4）住宅投資（前回からの変化） → 減少している。
（新設住宅着工戸数前年比：26/3月▲10.1%→26/4月▲11.4%）

（5）輸 出（前回からの変化） → 持ち直している。
（輸出額前年比：26/3月9.8%→26/4月12.8%＜速報値＞）

清水港、田子の浦港、御前崎港、静岡空港の4港合計

2. 生産、雇用・所得、物価の動向

(1) 生産(前回からの変化) → 横ばい圏内の動きとなっている。

(鉱工業生産指数・生産<季節調整済>前月比：26/2月▲1.2%⇒26/3月▲1.2%<速報値>)

自動車・同部品、化学は横ばい圏内の動きとなっており、二輪車・同部品は回復している。食料品は持ち直している。はん用・生産用・業務用機械は弱めの動きとなっている。化学は横ばい圏内の動きとなっている。電気機械は回復している。紙・パルプは弱めの動きとなっている。楽器は弱めの動きとなっている。

(2) 雇用・所得(前回からの変化) → 緩やかに改善している。

(有効求人倍率 季節調整値：26/3月1.08倍⇒26/4月1.06倍)

(3) 物 価 前年を上回っている。

(消費者物価指数(除く生鮮食品)：前年比26/3月2.6%⇒26/4月2.2%)

3. 企業倒産、金融面の動向

(1) 企業倒産 . . . 概ね感染症拡大前の水準となっている。

(26/4月、負債総額10百万円以上)をみると、倒産件数(19件<前年比：▲35.7%>)
負債総額(38億円<同：▲142.6%>)

(2) 預 金 前年を上回っている。(前年比：26/3月末+1.2%⇒26/4月末+1.5%)

(3) 貸 出 前年を上回っている。(前年比：26/3月末+2.7%⇒26/4月末+2.4%)

(4) 貸出約定平均金利 . . . 前月比上昇している。

(地元地銀・第二地銀4行ベース、総合・ストックベース水準：26/2月1.627%⇒26/3月1.675%)

以 上